

# 茅風



Breeze from the field of thatch-grass

2007年4月20日  
森林塾青水  
事務局便り  
茅風通信 21号



速報 ; 野焼き、大成功!..... 1  
 07年1月~4中旬の活動報告(事務局)..... 2  
 第6回講座「コモンズ村ふじわら」レポート  
 ・大幽洞窟ノール作グ / 内野みつ子..... 3  
 ・大幽洞窟への雪中トックグ / 小野丞..... 3  
 ・暖冬の藤原で / 川端英雄..... 4  
 2007年度事業計画の概要(事務局)..... 5  
 2007年第2回講座「コモンズ村・ふじわら」  
 参加者募集のご案内(事務局)..... 7

写真提供 : 海老沢秀夫

## 速報 ; 野焼き、大成功!

事務局

4月14日(土)に的をしぼった野焼き予定日の当日。暖冬で雪が少なく、記録やぶりの豪雪だった昨年とは反対の意味でヤキモキ、ハラハラさせられたが、十二神様(じゅうにさま)に晴れを祈り続けた靈験あらたかに、待望の火入れ一発成功!

午後2時。鈴木町長、熊木区長のご挨拶に続き、雲越万枝さんの指揮のもと「山の口開け」儀式をとりおこない、その後ただちに火入れ開始。

またたく間にひろがる野火(のんび)と白煙に、火入れ従事者30人、写真愛好家や見学者、NHKほか報道関係者など100余人が感動を共にしつつ酔いしれた。



みなかみで都内の市民団体ら

## 春を告げる 野焼き



奥利根地方に春の訪れを告げるカヤ場の野焼きが十四日、みなかみ町藤原の入会の森で行われた。残雪の中を真っ赤な火が走る幻想的な光景が見られた。作業には県内外から三十人が参加。地元住民から消火方法など(清水英毅塾長)が地域の指導を受けた後、た

前からは開始。害虫を駆除するとともに、カヤに適した土壌を作る効果がある。野焼き後、芽吹いたカヤは十月に刈り取って文化財の屋根材に活用する。

「入会の森」で行われた野焼き。瞬く間に三鈴の草原は炎に包まれた。清水代表は「朝の雨のおかげで大きく燃え上がらず、安全に野焼きができた。これでいいカヤができる」と声を弾ませた。

上毛新聞 2007/4/15

- 1月10日(水)； 新年初の幹事会。塾の仕事始めの感じ。三条印刷さんにも、長岡市より来てもらい「藤原ガイドマップ」の打合せ。
- 1月23日(火)； 川端、清水が藤原を訪ね、親男さん、好一さん、武さんとガイドマップの作成につき詳細打合せ。地元で永らく暮らし、地元で愛着を持っている人々ならではの情報を沢山いただけて大変よかった。
- 2月5日(月)； 清水、森づくりフォーラム訪問。坂井事務局長、松井理事と今年度のタイアップ事業計画につき打合せ。大筋、合意。
- 2月17日(土)～18日(日)； 第6回講座「コモンズ村ふじわら」開催。  
日帰りも含め、参加10名でカンジキやスノーシューで雪原散策を楽しむ。予定していた「遊山館」の雪掘りは、雪が少なかったので中止。夜は、地元から万枝さん、久さん、惣一郎に参加していただき、町役場の小野丞さんを交えて野焼き日程の事前相談などで盛り上がる。万枝さん、久さんから一升瓶(勿論、お酒!)の差入れに一同大喜び。
- 2月21日(水)； 「花咲村」代表・園田さん、来訪。茅刈り、野焼きへの協力、連携のお願い。
- 3月6日(火)； 麗澤中学「樹木観察会」の事前打合せ。青山の環境パートナーシッププラザ・エゴ会議室に藤田先生、太田先生、日大生・8名と当塾生・5名が集って、お弁当つき会議。学生諸兄の熱心な姿勢が爽やか!
- 3月15日(木)； 早稲田大学アジア太平洋研究センターに原教授(当塾最高顧問)を訪ね、過年度の事業実績報告と今年度事業計画(案)の説明。ガイドマップをお手にとられ、これまでの当塾活動につき過分のご評価をいただき大いに元気づけられる。
- 3月20日(火)； 「藤原ガイドマップ」がついに完成。初版5,000部が本日納品。作成にかかわっていただいた編集委員の皆さん、ご理解とご助成を賜ったみななかみ町当局ならびに群馬県当局に多謝。
- 3月26日(月)； 滑志田、笹岡両顧問をお招きし、過年度の実績報告と今年度事業実績報告(案)を説明し、ご意見ご示唆をいただく。  
滑志田顧問は3月、めでたく博士(政治学)の学位を取得された由。論文テーマは「地球温暖化と森林行政の転換」。塾生一同、お慶び申し上げますとともに、今後とも大所高所よりのご指導をお願いする次第。
- 4月1日(日)； 小野丞&湯本(恵)さんにおつき合いいただき、みななかみへ日帰り。3月25日にオープンしたみななかみ町「山岳資料館」を訪問、木村伸介館長(!)に表敬。当塾より寄贈の写真パネルや藤原ガイドマップがよい位置に掲示されていて嬉しかった。  
その足で上ノ原へ行き、野焼き前のフィールド事前視察。  
積雪は約30cm。昨年は4月13日で、何と170cmだったのに!!万枝さん達の除雪車が既に3台入っており、明日から、広場から上方エリアを除雪予定。ここは、3年前に火入れをした場所。これで一巡することになる。
- 4月3日(火)； 海老沢、清水で日本自然保護協会を訪問。保護・研究部の開発部長、広瀬主任、高川研究員と打合せ。協会が推進する「モニタリングサイト1000」を上ノ原のフィールドにて受入れ・実施することにつき、実質合意。今年は受入れ準備、来年より実施の運び。早い時期に、高川さんがフィールドを視察してくれる由。楽しく意義あるプログラムになりそう。
- 4月4日(水)； 今年4回目の幹事会。今年度事業計画(案)の決定と総会・セミナーならびに野焼きのタイムスケジュール、役割分担など打合せ。
- 4月7日(土)； 平成19年度定期総会ならびにセミナー、懇親会を青山の環境パートナーシッププラザ会議室にて開催。総会には、原、笹岡両顧問以下、会員34名が参加(委任状提出者を含む)。原案通り過年度事業実績・会計収支ならびに今年度事業計画予算(案)を承認。セミナー・懇親会には地元藤原代表・林親男さんならびにみななかみ町当局から林総合政策課長、木村観光商工課長をお迎えし、会員・会友・一般の方々も交えた交流の輪が広がった。
- 4月14日(土)； 待望の野焼き、実施。(当日の様子など、1頁の速報をご参照下さい)

以上



大幽洞窟に向けてスノーシュー / 内野みつ子

自分で作ったカンジキを履く人、スノーシューを履く人、私と夫は十数年前に購入したパイプで作ったカンジキを登山靴に結びつけ、ザックにはおやつと水、急救用具、ストックを持ち上の原から大幽洞窟に向かって出発、熊棚が良く見える。途中ストックで雪遊び、これが結構楽しい。雪をストックのリングの上のせて対象物に当てる、ストックで雪を飛ばす「カチカチ」という音と笑い声が森に木霊し、体もあつくなってくるから不思議。後姿のリュックに当てたりと童心に帰る時間でもあった。カラマツ林を通り左に曲がると雪の坂道、カンジキを履いていても10センチはもぐる、防寒着を着て歩き出したのにもう暑い、水分の補給と中間着脱いでリュックに入れ、フーフー言いながらストックの力をかりて歩く。雪が少ないとはいえ、山の中、坂道の途中大雪の感もする。雪の上に腰をおろし何回かの休憩、やっと若い人に追いつく。最後の急坂をジグザグに登り洞窟に到着、夏は滝のように流れているのが凍っていてブルーの氷のかたまり、洞窟の中はしずくが凍りつららを逆さにしたようなカタマリとなっていた。洞窟は新潟までつながっているとか・・・。

登ってきたものの帰りが正直いって怖かった。急な坂を下りねばならない。惣一郎さんは到着するなりカンジキを脱いでいた。脱いで降りたほうが、早い安全とのこと、カンジキをリュックにしばりつけ、かかとで雪面を踏みつけ斜面をおりた。途中からお尻で滑っても大丈夫だという声、滑り台の感覚でとの事のように、皆が歩いた後、デコボコだったり削られている。男の人は、私の到着を今か今かと待っている。緊張しながらゆっくりおりる。雪の山道を何回かおりているけれどやっぱり怖い、怖かった・・・。

余談ですが、3月初旬に藤原現地事務所にてフキノトウを採取、いつもより緑色がかって硬い感じでした。フキ味噌を作っておりますので野焼きの時に持参したいと思います。今年の熊の毛皮は、とてもつややかで上質とか、熊の生態系が変化していて絶滅が心配されています。



大幽洞窟への雪中トレッキング / 小野丞



昨年の豪雪が嘘のように「微雪」のため「雪掘り」体験は中止となり1日目は上ノ原フィールドをスノーシューとかんじきで散策、2日目は大幽洞窟への雪上トレッキングに変更されました。

上ノ原フィールドでの冬季散策は初体験でした。天気が良く遠くの間々まで見通せた事もあります、雪面を自由に散策するのは田舎に住んでいる私も心洗われ幸せな気持ちになりました。たまたまフィールドに都会の若者たちが地元ガイドとスノーシュー散策に来ていましたが、お金を払ってでも来てみたくなるのも同感できる気がしました。

2日目の大幽洞窟への雪上トレッキングは私がリクエストしたので、実現していただけてとても嬉しかったです。数年前に1度訪れた事があるのですが、もう一度見事な洞窟内の氷柱を見てみたかったのでお願いしてみました。個人的に行ってみたかっただけですが、以前訪れたときにとっても素人が一人で行ける道ではなかったもので諦めていました。

現在ではすっかりメジャーなスノーシュートレッキングの目的地となっており、たまたま会った知り合いの地元ガイドに聞いてみると週末は数団体を案内しているので、個人で訪れても道に迷うことはないの安心して良いそうです。友人に紹介したところ、是非見てみたいとのことだったので、個人的に行く予定です。

氷柱の状態は予想どおり氷柱が小さかったです。今回の記録的な暖冬の影響で例年でいくと3月中旬位の本数と大きさでした。例年ですと3月中旬頃から洞窟の天井から落ちる水滴で氷柱の上部が溶け始め、ワイングラスの様な形となるのですが、今年はそこまで氷柱がもってくれるか心配です。3月には確認へ行こうと思っています。実際見た感想はやはり、感動でした。大きさは小さかったのですが、自然が作り出した芸術品にしばらく見とれていました。また、案内をしていただいた阿部惣一郎さんの実体験をおりませた各場所の説明は楽しく、昔の風景を想像させてくれる興味深いものでした。

今後も毎年積雪量や気温を確認し、訪れる度に違う美しさを見せてくれるこの大幽洞窟へ行こうと思っています。今回の講座で本年度のコモンズは終了ですが、来年度も是非参加させていただきたいと思っています。今年度は皆様には大変お世話になりました。とても楽しい時間を過ごせました、ありがとうございます。



### 暖冬の藤原で\*

川端英雄

今回は小人数。諸事多忙の日帰り組みも多くて。初日、上ノ原へ行く途中3月にオープンする町営「山岳資料館」を訪ねる。ここ数年地元の世話役を大きな体に一身に引き受けてこられた、われらの木村さんが初代館長。前回訪問時よりかなり充実した資料群～時代を感じさせる貴重な写真、雑誌、登山道具の類、地図などなど、つい見とれてしまうものもある。馬場さん(もと谷川岳山岳救助隊長)の顔も見える。馬場さん提供の資料も数多いとか。みなかみ町周辺の谷川岳、巻機山、大水上山(ここが利根川の最奥源流)、武尊山、平ヶ岳などの山岳から集まった水は、矢木沢、奈良俣、須田貝、藤原ダムの水がめに貯えられ、利根川を經由して我々の蛇口にコンニチハ! 木村さんはさしずめ水守りか。

暖冬ながら思いのほかのにぎわっている宝台樹スキー場を脇に見て、上ノ原に着く。さっそく、かんじき雪中観察会。少ないとはいえ、積雪量も1mはあるだろう。スノーシューズをはじめて履いてみる。取り扱いが簡単そうだが・・・、歩いてみないと? 雪上に誰がいる。聞いてみると、町中のラフティング業者が引率して来ているカップル。「フーン 冬もしっかり稼いでいるんだ!」

雪原はやっぱり気分が良い。誰も足跡を残していないところを歩くのは、なんともいえない、まるで天下人になった感じ。スノーシューズ、歩いてみるとやはり具合の悪いところがある。歩き方のせい、シューズの後ろの部分が互いに重なってしまい、足がもつれそうになる。意識してもいつの間にか重なり、こけそう。

4時過ぎに民宿「樹林」に靴を脱ぐ。夕食後、地元古老の雲越万枝さん、阿部惣一郎さん、

役場の小野丞さんに入ってもらい、春の野焼きの実行日 の相談。暖冬の雪は融けるのは早い、2週間くらいは早まるのでは?などの討議を聞きながら、わたしのお眼めはなぜか重い。

明ければ2日目、お天気は大丈夫の様子。きょうは大幽洞窟へ雪中トレッキング。スノーシューズをやめて、カンジキを履く。このカンジキは昨年自分で作ったものだが、実質は惣一郎さん手製と言っても良いほどのもの。よい履き心地。

先導は惣一郎さん。まったく<sup>かくしやく</sup>豊饒としたもんだ。若いころから体を使ってこられた結果が、いまあるんだろうな。脳みそも使っておけば良かった。途中で<sup>きんまみち</sup>木馬道の跡に出会う。切り出した木材を木そりにのせて、山のふもとまで運び出す。「そりのこの部分に、こんな梶棒があって、プレーキや進路の調整に使うんだが、ときには振り落とされてケガをすることもあった」昔をなつかしみながら語る惣一郎さん、楽しそう。

大幽洞窟の手前の胸突き八丁。直登を試みる。急斜面でカンジキももぐる。胸はふいごのように鳴る。ストックを挿す。もう少しだ、あの氷柱目指して・・・がんばろう!

入口の氷柱2m以上はあるだろうか。仁王様のように洞窟を守っている。下から上に伸びる氷柱、いったいどれくらいの時間をかけて成長するのだろうか。高さマチマチに、たくさんあるが、やはり今年の成長ぶりはかなり低めとのこと。薄暗い洞窟のなかで天井を見上げると、細かくキラキラ輝いているものがある。金属質のものが混じっているのだろうが、じっと見ていると宇宙の果てのかすかな 群のようにも見えて、幻想的。洞窟の奥に追いこまれた鶏が数日後に新潟で発見されたとか、<sup>やつかはぎ</sup>八束脛(越後国風土記に、崇神天皇のころ越国に人あり、八束脛と名づく、と。古代伝承に見える足の長い人。先住民を誇張している。～広辞苑から)がここに住まっていたとか、藤原でも奥地だけあって、優雅な伝承が残されている。

帰途、何組かのスノーシューズ軍団に出会う。いつでも、どこでもビジネス・チャンスがあるんだ。

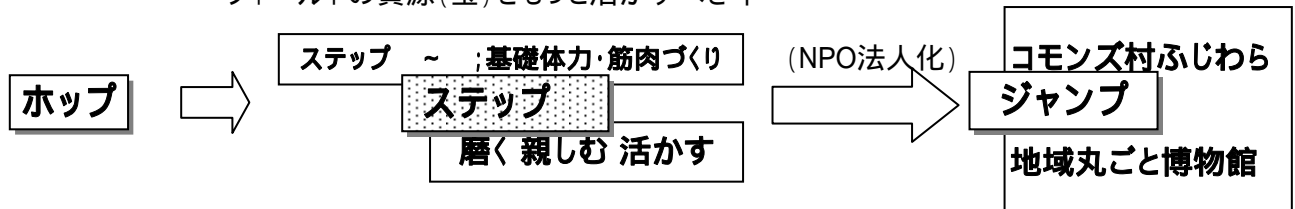
辛新 でラーメンを食べて帰る。辛子が身を焦がす。



1. 2007年度の位置づけ

塾発足7年目、現代版「入会慣行」を考える会の6年目

目標にむかって、フィールドの資源(宝)をもっと磨き  
 フィールドにもっと親しみもって深く知り  
 フィールドの資源(宝)をもっと活かすべき年



2. 活動の基本方針

初心を忘れず、3S重視

「飲水思源」  
 楽しみながら良い汗をかく ———— シンプル、スロー、ステディ

3. 重点事業 ~ 施策、プログラム

1) 資源(宝)に磨きをかけ、価値を高める

ススキ草原 = 茅場の再生 ; 野焼き、除伐、茅刈り、管理道メンテ  
 古道の再生 = フットパス作り ; 芦ノ田峠越の再生と既往道のメンテ

2) 資源(宝)に親しみ、よく知り、データを記録し将来に備える

「藤原ガイドマップ」の活用とバージョンアップ  
 使いながら改訂、充実( ~ 利用者むけ解説)  
 「入館(山)心得」( = 現代版入会慣行)の普及・啓蒙  
 講座「コモンズ村ふじわら」に定点観察・記録プログラム導入  
 日本自然保護協会「モニタリングサイト1000」事業の受託準備

3) 資源(宝)に光をあて、活用する

自然ふれあい環境楽習プログラムの充実  
 麗澤中、川越小、藤原中、浦安保育園、など  
 藤原ガイドマップ、藤原案内人クラブの活用

「文化財の森」事業化へ着手  
 重要文化財の茅葺用材の安定的出荷・供給を目指す  
 森づくりフォーラム、文化財を未来につなぐ森づくり有識者会議他とタイアップ

「癒しの森・セラピーロード」プログラムの試行  
 中高年・団塊世代むけ滞在型・リピート型プラン  
 藤原ガイドマップ、自然観察指導員・森林インストラクター会員の活用

基盤事業Ⅱ講座「コモンズ村ふじわら」

森林塾青水 2007 年度年間活動計画

テーマ別重点施策		2007年										2008年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
講座「コモンズ村・ふじわら」		海老沢	14～15日	12～13日	9～10日			8～9日	13～14日	10～11日		16～17日		
資源を磨く	ススキ草原・茅場再生	海老沢 広川	山の口明け ・野焼き ・除伐	・除伐				・管理道普請	・管理道普請 ・茅刈り	山の口終い ・茅刈り				
	古道の再生=フットパス作り			・芦ノ田峠越 (下調べ)	・芦ノ田峠越 (道開け)									
親しみ知る	ガイドマップの活用とバージョンアップ	高野 中島武												
	定点観察・生き物暦作り (モニタリングサイト1000に向けて)	海老沢 高野 中島武	・生き物調べ・記録(昆虫 小動物 植物) ・「私の木」調べ(代表樹木の季節変化記録)					・生き物調べ・記録(昆虫 小動物 植物) ・「私の木」調べ(代表樹木の季節変化記録)				・冬芽の写真記録		
資源を活用	自然ふれあい環境学習	湯本 高野 広川	・飛森谷戸 3/31～4/2	・麗澤中 19日		・麗澤中 12～13日 ・川越小						・かんじき&スノーシューハイキング		
	「文化財の森」事業化	川端 清水	●-----									●-----		
	「癒しの道」プログラム	湯本 井上		12～13日	9～10日			8～10日	13～14日					
地元・行政との協働		清水 広川	山の口明け ・野焼き	・古道再生	・古道再生	・自然ふれあい環境学習			・茅刈り	山の口終い ・茅刈り		・雪の処理 16～17日		
他団体との連携		清水 井上	・森づくりF ・花咲村	・知的ネット 19～20日					・森づくりF 27～28日	・森づくりF 10～11日 ・花咲村 10～11日				
推進態勢	事務局・スタッフの充実 茅風通信・HPの充実	清水 浅川	通信			通信			通信			通信		
	実働会員の増大	川端 広川	●-----					●-----						
	東京事務所の確保	清水												
	助成事業活用	浅川												
幹事会・総会		清水 浅川	4日 7日(総会)	9日	6日	4日		5日	3日	7日	5日	9日	6日	5日
催事・祭礼など					・武尊山山開き		・諏訪神社例大祭 ・藤原区民祭り ・マラソン大会		・秋の健康ハイキング	・渋谷区民祭				



## ススキ草原は人と生き物の入会地

## 第2回 旧道「芦ノ田峠」の下見と雨呼山遊歩道整備

森林塾青水では、ススキ草原（茅場）と古道の再生・活用に取り組んでいます。地元、行政、都市住民など、さまざまな人たちの力と知恵を寄せ合って、昔のようないい「茅場」にしたい、歩く道を復活させたい。そんな願いを込めた「コモンズ村・ふじわら」は、今年で4年目に入りました。

今回はフィールドを少し離れ、旧道「芦ノ田峠」の復活にむけての下調べです。藤原案内人クラブの人たち、地元中学生などと一緒に道を歩きます。案内人クラブが予定している雨呼山遊歩道の展望地整備にも参加します。参加者を募集します。

日程...5月12日(土)～13日(日) / 下記予定表をご参照ください

集合...初日の10時20分、JR上毛高原駅改札口

<上越新幹線> 東京 8:52 上野 8:58 - 大宮 9:18 - 高崎 9:52 - 上毛高原駅 10:14

費用...一般10,000円(1泊2食)、森林塾青水会員9,000円(1泊2食)

宿泊費、夕食、朝食、保険代など含みます。

初日の昼食は各自持参、2日目の昼食代、交通費は自弁

宿...民宿「とんち」(美人女将の手作り料理が好評。今回は山菜づくし)

〒379-1721群馬県みなかみ町藤原3534-1 / 電話:0278-75-2337

服装など...長袖、長ズボン、ジャケット、手袋(軍手)など、山歩き、作業に適した服装でお願いします。あれば長靴で。水筒、雨具も必携です

申込先...森林塾青水事務局=コミュニティデザイン(浅川潔)【メール】[info@commonf.net](mailto:info@commonf.net) / 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-60-702 【ファクス】03-5474-0847

緊急・当日連絡先...清水英毅携帯(09035752283)・海老沢携帯(09075528557)

## 【1日目】5月12日(土)

時刻	内 容	備 考
10:20	上毛高原駅集合	
11:30	上ノ原「入会の森」へ。散策、観察	
12:00	昼食・休憩(弁当は各自ご持参下さい)	
13:00	芦ノ田峠の下見 次回の整備作業に向けて、青木沢集落～平出集落の間を歩く	指導:藤原案内人クラブ ほか
18:00	夕食 交流会	ロッジとんち

## 【2日目】5月13日(日)

時刻	内 容	場 所
7:00	朝食	ロッジとんち
9:00	雨呼山遊歩道の展望確保となめの「ボエ(やぶ)」刈り	指導:藤原案内人クラブ
12:00	昼食	レストラン「幸新」
13:00	上ノ原「入会の森」へ。散策、観察	
14:00	解散	
15:19	たにがわ416(上毛高原駅)	

参加申込み締め切り日 4月27日

送信先

E-MAIL info@commonf.net

FAX 03-5474-0847

「森林塾青水」事務局=コミュニティ・デザイン内(浅川潔)

## 出欠連絡票

第2回講座 commons に (右記のどちらかに 印してください)		参加します			欠席します	
お名前						
E-MAIL FAX番号						
印を付けてください	月日	朝食	昼食	夕食	宿泊	交通手段
	5月12日(土)					自家用車 電車(上毛高原駅・水上駅)
	5月13日(日)					自家用車 電車(上毛高原駅・水上駅)
通信欄						